

タイトル

口腔扁平苔癬に対するタクロリムスの使用に関する検討

A study on the use of tacrolimus for oral lichen planus

福永大二郎^{1,2)}・吉川博政^{1,2)}・吉田将律^{1,2)}

木村祥一郎^{1,2)}・沖永耕平^{1,2)}・志渡澤和奈^{1,2)}

¹⁾ 国立病院機構九州医療センター歯科口腔外科（主任：吉川博政 部長）

²⁾ 国立病院機構九州医療センター臨床研究センター（主任：岡田靖 センター長）

概要

口腔扁平苔癬（oral lichen planus；以下 OLP）の治療は原因の除去やステロイド外用・含嗽が主に行われるが、びらん・疼痛が消失せず治療に難渋する症例も多い。近年、皮膚科領域では免疫抑制薬であるタクロリムス軟膏が治療法の一つとして取り入れられている。そこで我々はステロイド治療に難治性の OLP 症例にタクロリムス軟膏を使用しその臨床効果について検証した。対象は 2011 年 10 月～2015 年 8 月まで九州医療センター歯科口腔外科を受診し、病理組織学的に OLP の診断を得た患者で、治療のためタクロリムス軟膏を使用した 14 例（男性 5 例，女性 9 例，平均年齢 63.6 歳）である。タクロリムス軟膏は皮膚科受診後に使用を開始し，1 日 2 回塗布を基本とした。治療成績は著効 6 例，有効 5 例，やや有効 3 例，無効 0 例であった。再発症例は 2 例のみであったが，1 例に使用中病変部に上皮内癌の発生を認めた。タクロリムスはステロイドが奏功しない難治性 OLP に対して有効であると考えられるが，悪性転化の可能性も否定できず慎重な使用が求められる。